

フィリピン大学マニラ校と「Workshop on Disaster Management」を開催しました (2014/06/27)

テーマ：Disaster Management

会場：東北大学星陵キャンパス

6月27日(金)、災害医学部門はスーパー台風ハイアンで甚大な被害を受けたフィリピンのフィリピン大学マニラ校の副学長 Marie Josephine M. De Luna 博士、医学部副部長 Armando Crisostomo 教授の東北大学への訪問を機に、Disaster management に関するワークショップを開催しました。今村文彦 教授(所長、災害リスク研究部門)の開会の挨拶、Armando 教授の講演の他に、歯学部佐々木研究科長が歯の記録に基づいたご遺体の同定法を説明しました。さらに東北大学メディカルメガバンク機構のグループリーダー田邊教授が機構の成果として、日本人特有の塩基配列を多数発見したことを明らかにしました。当研究所からは、江川新一 教授、富田博秋 教授、浩日勒 助教(いずれも災害医学研究部門)、マス・エリック 助教(災害リスク研究部門)と地引泰人 助教(情報管理・社会連携部門)が参加し、東日本大震災、台風30号(ハイアン)の現地調査を踏まえて災害及び復興の研究成果を発表しました。また本ワークショップは、服部俊夫 教授(災害医学研究部門)がコーディネーターを務めました。

今後の災害対策・復興の問題点を共有する有意義なワークショップとなり、マニラと仙台で継続的に開催することが提唱されました。



文責：浩日勒（災害医学研究部門）